



営農NEWS



秋冬どりキャベツの生育期における病害虫防除

キャベツの生育中には、アオムシやヨトウムシ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ウワバ類などチョウ目害虫による食害や、アブラムシ類などが株に寄生して吸汁害などが発生します。これらの対策として、生育の初中期を対象に、ペリマークSCやプレバソフロアブル5などの育苗期後半の灌漑処理、ダントツ粒剤やジェイエース粒剤などの育苗期後半の株元散布または定植時の植穴処理などが行われており、薬剤によって異なりますが、処理後2週間～1か月くらいの防除効果が期待できます（育苗期後半～定植時に処理する主な防除薬剤については、「営農NEWS 第2558号：平成29年8月10日発行の夏播きアブラナ科野菜類の生育初期における害虫被害の発生を防止しましょう」を参照）。

しかし、定植前や定植時に処理した薬剤の効果が切れる頃から、害虫の産卵や幼虫ふ化が始まり、発生に気づかずに防除が手遅れになってしまうと、幼虫の食害などによる著しい商品価値の低下や減収を招いてしまいます。

病害虫発生予報8月号（県病害虫防除所）によりますと、8月におけるハスモンヨトウの発生量は平年並、オオタバコガは平年並～やや多いと予測されています。

一方、7月下旬から天候がくずれており、長雨や日照不足が続いています。さらに、向こう1か月予報（8月24日発表）によりますと、「天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。降水量は平年並または多い確率40%、日照時間は平年並または少ない確率40%」と予想され、病害の発生を助長する恐れがあります。

連続した降雨や暴風雨が多くなってきますと、黒腐病や黒斑細菌病、軟腐病、菌核病など各種病害の発生する懸念がありますので、常に作物を注意して観察し、予防または病害の発生初期における防除を徹底してください。

病害虫が発生した場合には、下記を参考に、早めに薬剤防除を行ってください。

表1 キャベツ害虫の本圃における主な防除薬剤（平成29年8月28日現在）

薬剤名	アオムシ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	タマガンウワバ	コナガ	ハイマダラノメイガ	オオタバコガ	アザミウマ類	アブラムシ類
アニキ乳剤	○		○	○ウワバ類	○	○	○		
フェニックス顆粒水和剤	○	○	○	○ウワバ類		○	○		
アクセルフロアブル	○	○	○	○ウワバ類	○	○	○		
プレオフロアブル	○	○	○	○ウワバ類	○	○	○		
トルネードエースDF	○	○	○	○	○	○			
コテツフロアブル	○	○	○	○	○	○	○		
ディアナSC	○	○	○	○ウワバ類	○	○	○	○	
ファルコンフロアブル	○	○	○	○	○	○	○		
ハチハチフロアブル	○				○	○		○	○
オリオン水和剤40	○	○		○					○
コルト顆粒水和剤								○オザミウマ	○
モスピラン顆粒水溶剤	○				○			○	○

表2 キャベツ病害の主な防除薬剤（平成29年8月28日現在）

薬剤名	黒腐病	黒斑細菌病	軟腐病	菌核病	株腐病	べと病
スターナ水和剤		○	○			
カセット水和剤	○	○	○			
カスミンボルドー	○	○	○			
バリダシン液剤5	○		○		○	
Zボルドー	○	○	○			○
セイビアーフロアブル20				○	○	
シグナムWDG				○	○	○
ファンタジスタ顆粒水和剤				○	○	
アフエットフロアブル				○	○	
ロブラール水和剤				○	○	
リゾレックス水和剤					○	
ランマンフロアブル						○
ダコニール1000						○
プロポーズ顆粒水和剤						○

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040